「介護している人を互いに支えることができる地域づくりモデル事業」の構想

～ 地域生活者が気軽に相談でき、一人ひとりに出番と居場所のある地域づくりを目指して ～

【なでしこグループ】新満 裕子 井上 秀子 小原 美津子 川添 典子 高岡 千歩 前野 信子

本市においても、少子化・高齢化、人口減少の中高齢者介護とその対応が待ったなしの課題である。そのような状況の中住民自らが、2025年問題への対応は子育てと介護を同時に行うダブル介護やこのための離職など人々への生活の経済的・精神的に大きな影響を及ぼすものである。そんな中、住民自らが生活課題の解決に向かう「共助のコミュニティづくり」を狙いとしている。また、私たちは、介護している人の側からコミュニティづくりを考えるのは、介護している人に焦点を当てることで、生活課題が複合的に絡んでいることを明らかにするためである。メンバーが普段の生活の中で感じる問題を話し合う中で、それらの一人一人が抱える複合的な生活課題を共同と自治の力で解決することが期待される自治会やコミュニティ協議会における地域づくりの在り方に話が及び、調査・研究テーマを「介護している側から高齢者介護を考える」とした。そして、テーマについての現状把握→課題の抽出を行い、介護している人が、困りごとを話し、またリフレッシュしながら地域の中で安心して暮らせる一方策として、この事業を立案した。

現状として把握されたこと・・・①介護・見守りが必要な高齢者一人一人の状況・ニーズの多様化に実感的に対応する、高齢者介護・見守りにかかるサービスを提供する仕組みづくりと、その担い手の意識改革が必要である。②高齢者介護を必要とする人が増えていく中、高齢者介護についての固定的性別役割分担意識・画一的な家族像など固定観念が依然根強く、介護の必要な家族がいる人が抱える多種多様な生活上の困難が潜在化している。③医療機関でのデイケア等介護保険制度内でのサービスの多様なニーズへの対応が困難である限界を埋めることが期待される各自治会や地区コミュニティ協議会でされている高齢者の居場所としてのサロン活動は、利用者一人一人の希望に寄り添うことが難しい状況にある。④高齢者介護を必要とする人が増加する中、家庭介護をしている人の息抜きや情報交換の場を望む多様なニーズに対応する、より身近で充実したサービスの提供が求められている。⑤地域での様々な活動や行事が年齢や性別で一括りにする縦割りで行われる傾向にあり、年齢や性別にかかわらず一人ひとりの個性と能力が十分に発揮されず地域の活力に影響を及ぼしている。

課題として抽出されたこと・・・①性別役割分担意識がなかなか解消されない。②介護している人を支えることができる交流の場づくり③高齢化地域で高齢者が活躍できる場の創出①～③を集約すれば 地域の人々が生活者の視点で地域生活環境を見直し、共通の課題のもとに自治と共同の力で地域課題を解決していく「共助」の場として、地域コミュニティづくりの目標である地域生活の質の向上と地域生活課題の解決に向けて力を付けるには

住民全員で共有し、住民それぞれの知識や技術をいかし、住民それぞれが動きやすい体制（しくみ）づくり の必要性についての重点課題提起に至った。本事業はこれまで 一人で抱え込んでいた悩みや、困りごとをさりげなく掬い出すような場の創出を意図している。このことを機に 様々な人が集い、地域の人々が抱える様々な生活課題を改善・好転・解決につながることを期待される。介護している人を互いに支えることができることの意義は、世代・性別生活形態等の違いを超えて多様な人々の交流が促進されることにより、そこに培われていく住民間の信頼関係に、人々が抱える困り事や悩み事がさりがなく掬い出される「場」となり、そこに集う多様な人が活動する自治力による自発的で弾力的な「支え合い共助」の力が引き出されていくことになると、私たちは考えている。

この構想の付加価値

- ・コミュニティ意識の醸成が図られる。
- ・協働することへの理解が生まれる。(継続することで 広がり、深まる)
- ・今まで自治会活動に疎遠だった人等多様な人の自治会活動や行事への参加が促進される。
- ・開放的な集いの場から、世代間・地域間等多様な交流が促進され住民間の信頼関係が深まる。
- ・コミュニティづくりの担い手となりうる人材が掘り起こされ、自主グループによる自発的弾力的な活動が創出される。
- ・生活にネガティブな循環から、ポジティブな循環へとハリが創出される。
- ・地域生活者である住民一人ひとりの声をに非常に聞くことができる。
- ・子育てへの支援の強化が図られる。
- ・市民一人ひとりがサービス(公的)を知っていることによって助言の幅が広がる。
- ・身近なダイバシティ体験により人権意識の醸成が図られる。
- ・様々な取り組みを継続していくことで 信頼が生まれる。このことにより更にポジティブな連鎖(自発的な行動、情報発信)が創出される。
- ・自治会への加入が促進される。

この構想によって利害が及ぶ人

- ・社会的側面に目を向け、当事者意識として考える人
- ・介護をしている人で、悩みを相談したいと思っている人
- ・子育て中で、悩みを相談したいと思っている人
- ・居場所がなくて交流したいけれど機会がなかった人
- ・孤立しがちな子育て中、介護中等多様な生活者一人ひとり
- ・閉じこもりがちな高齢者等集いの場生きがいづくりの場を必要としている人
- ・仕事に追われて等様々な理由で自治会活動に疎遠になりがちな人
- ・自治会に加入していない人
- ・地域の中に潜在している地域への貢献意欲がある人
- ・自治会エリアにおける「いきいきサロン」「親子サロン」自主活動グループ等の活動に携わっている人

長期的(3～5年程度)経営計画

- ・自治会エリア内(地域コミュニティにおける)自主グループによる生涯学習、子育て支援、独居老人(独居高齢者)・学童等見守り、コミュニティビジネスや有償ボランティア等の活動が定着する。
- ・住民間の集いの場としての利用が定着する。
- ・世代間・地域間等様々な人との交流活動が盛んになる。
- ・自治会や地域コミュニティから活動予算の配分を受ける。
- ・モデル事業としてその成果と課題の報告会の実施

中期的(1～2年程度)経営計画

- ・自治会館やコミュニティの行事等の周知等情報の提供・・・発信：ミニ新聞の作成
- ・自主グループや少人数でも楽しめる活動の増強
- ・今利用している人たちの活動などの中で聞こえてくる情報の集約をして自治会コミュニティと集約する場をつくる。
- ・携わるすべての人が波を創出していく。
- ・有償ボランティアの育成

短期的(数ヶ月)経営計画

- ・事業の中心となるメンバーを募る→メンバー間の共有化を図るための学習会(ソーシャルワーカーによる学習会等を開催しそのほじゅめ的な情報を持つ人の育成、エンパワメントとして制度や法律を知る人を育成)の実施。地域で信頼されている人の創出と人権に係る学習会
- ・モデルとなる候補自治会やサロンへの事業説明
- ・モデル自治会への事業についての理解促進運動→モデル自治会で行われている活動の内容等利用状況の調査
- ・自治会エリア内の住民を対象にした地域コミュニティづくりに係る学習会の実施
- ・モデル自治会の自治会館やコミュニティの行事等で行われている活動を更に広げていく。またその中へ参加していく。○モデル自治会で現在行われている活動を担っている人への儀行説明と調整○モデル自治会の実施計画説明→自治会エリア内の住民への広報活動

実現のための制約要因

- ・自治会の理解
- ・メンバーの確保
- ・活動資金の安定的な確保

実現のための制約要因

- ・当面の活動資金の確保

獲得すべき経営資源

人的資源	地域に暮らすすべての住民・男女共同参画地域推進員
物的資源	場所（自治会館、地区コミュニティ協議会の部屋）・備品（テーブル・椅子等）
財務的資源	運営資金（使用料、冷暖房代、通信費、飲食代、消耗品費等）
情報的資源	自治会回覧板、防災無線、FM さつませんだい、メール、印刷物（コミセンだより等）

そのために必要なネットワーク化

自らの組織・グループの補強	事業の中心となるメンバーからの賛同者の広がり
他の組織やグループとの関係	自治会、地区コミュニティ協議会
特定の個人（特に専門能力を有する人）	チャレンジ委員会、民生委員、健やか支援アドバイザー
対行政	薩摩川内市コミュニティ課・子育て支援課・高齢介護福祉課等、市社会福祉協議会